

こんなまちなら いいな

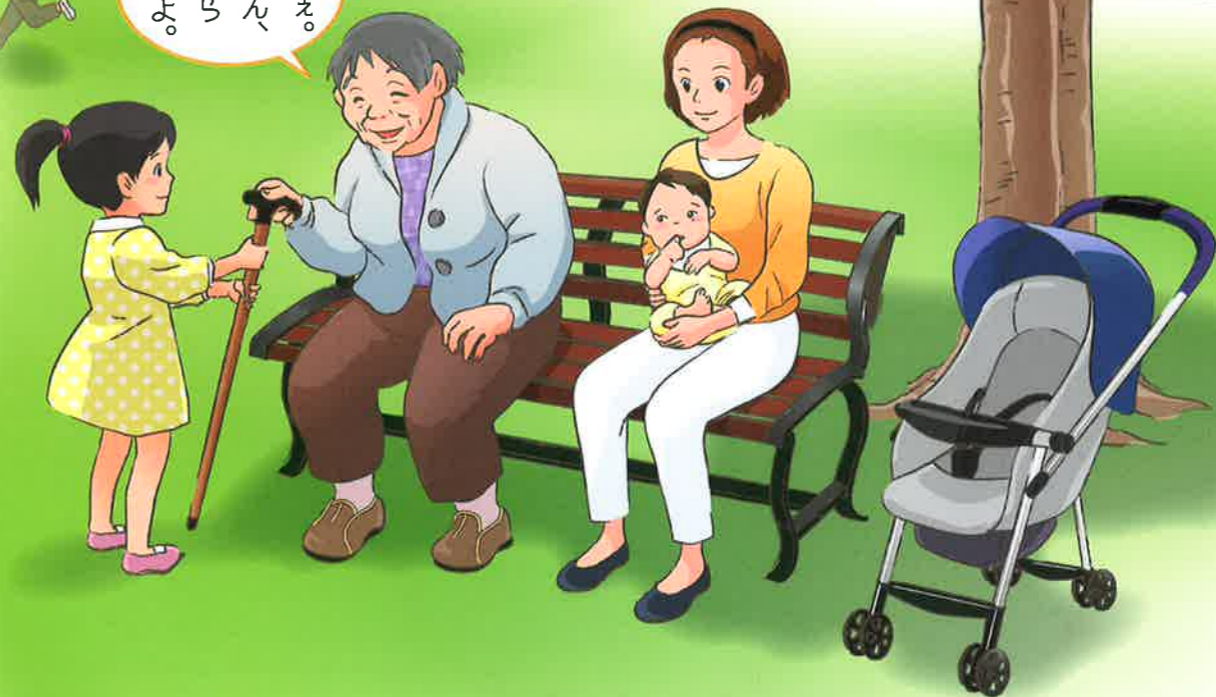
済生会が目指す地域づくり



全ての人が
一員として暮らせる地域を
みんなであつくりたい

人が減り、
空き家は増え、
子どもの声は消え……。
将来、私たちの住む地域はどうなってしまうのでしょうか。
その不安に対して
医療と福祉、379施設で計705事業を展開する
日本最大の社会福祉法人・済生会は何ができるのか。
そう考えて、誰もが安心できる地域の姿を求め、
外部の方を交えて1年にわたり議論を積み重ねました。

ありがとねえ。
ばあちゃん、
腰が悪いから
拾えないのよ。



それが平成27年3月に出された
「医療・福祉連携 地域ネットワーク専門小委員会報告書」です。
医療・介護を切れ目なく提供できる
済生会の高齢者福祉事業で、
国が進める「地域包括ケアシステム」の一翼を担います。
そして現在「なでしこプラン」として行っている
障害者や母子家庭、外国人、
ホームレス、刑務所出所者等の
生活困窮者への支援を充実させていきます。
引きこもりなど新たな支援にも
取り組もうと決意しています。
全ての人が
社会の一員として
生き生きと暮らす。
済生会は
そんな地域の構築を
目指して、
貢献を続けて
いきます。



すてきなシーンほもっとあるはず。
あなたも、思い浮かべてみてください。
済生会も地域に合わせた「かたち」を考え続けます
—医療・福祉連携 地域ネットワーク専門小委員会報告から—

C O N T E N T S

済生会の力①— こんなまちならいいな

04 こんなシーンが何気なく目に入ってくる……
済生会が目指す「まち」の姿です

- 12 [タイプ1] 山口地域ケアセンター、岡山済生会総合病院、
〈三重〉松阪総合病院 など
- 18 [タイプ2] 〈佐賀〉唐津病院、〈愛媛〉松山病院、
滋賀県病院 など
- 25 [タイプ3] 〈大阪〉吹田病院、〈栃木〉とちの木荘 など
- 29 [地域の包摂活動] 大分地域生活定着支援センター など

- 30 「医療・福祉連携」報告書概要
- 34 社会貢献は創立の原点 — 済生会の活動



「チャンス!! チャンス!!」
「秘技、3枚返しじゃ。行ったれ」
「うぁ!! あかん...」

メンコでは、子どもも大人も白熱。



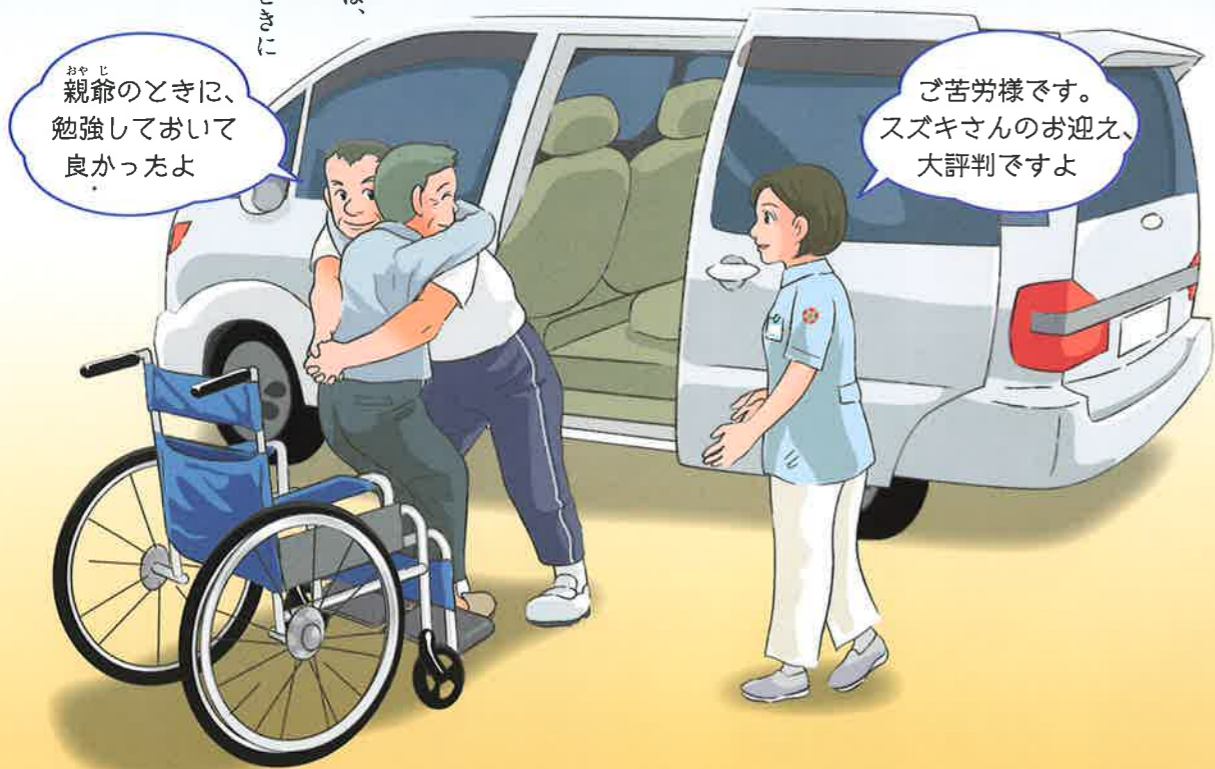
みんながやって来る
高齢者施設

ここはデイ・サービスもある
入所の高齢者施設。
入居者・利用者とその家族はもちろん、
特に関係もない地域のみなさんも時々、
顔を見せてくれます。

こんなシーンが何気なく目に入ってきて来る……
済生会が目指す「まち」の姿です。

介護マイレージ

ボランティアとして
介護に携わった人に、
従事した内容ごとに
ポイントが
貯まる制度。
貯まったマイレージは、
自分と家族が
介護制度を利用するときに
使えます。



午後になると、
学校を終えた小学生が
やってきます。
学童保育代わりです。
施設に入るや一目散に
駄菓子屋コーナーに向かう子も。
迎えが来るまで、
おじいさん、おばあさん、
手のすいた職員と遊んでいます。





みんなががんばって
稲を天日干しすると、
うんとうまい
お米になるんだよ

農家のイシイさんは毎年、
不登校の子どもたちを
自分の田んぼに招待。
稲作を教えています。
今日は、刈った稲を
天日干しする稲架掛けの日。

不登校の少年少女



ケンさん、
良かったね

ウス。
傭ん中で長えこと
木工の修行して
たんで

ケン、
やんじゃねえが

刑期を終え、老母の住む故郷に
帰ったケンイチさん。
少年時代を知る大工の棟梁に
「ケン、手伝え」と声をかけられました。

棟梁と元受刑者



DVから逃れる母子

心配
いりませんよ。
私たちはこのまちの
専門チーム
なんです

夫の激しい暴力から逃れるため、息子と家を出たヒロコさん。
今は遠くのまちで夜間の仕事に就いています。
晴れた日の昼は、
学校に通えない息子と公園で過ごす日々。
そんなある日、まちの職員が
声をかけてくれました。



ひきこもり10年

消防団の災害訓練に参加し
団長とことばを交わしました。

.....
軽いもんす

おめ、
力あんな

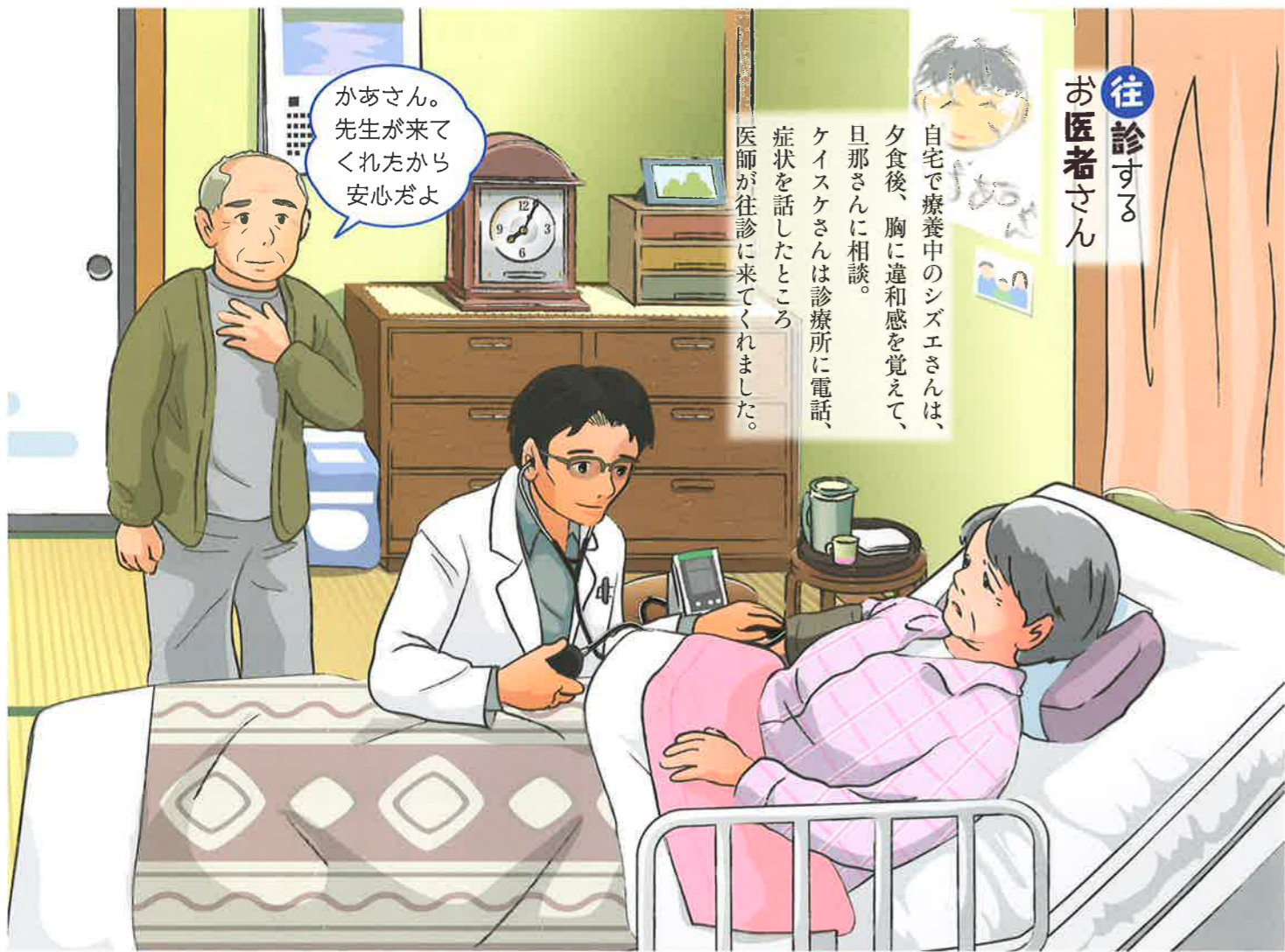
相撲部屋に入門、夢を果たせず帰郷した
タケシさんは、引きこもりに。
同級生に誘われ
10年ぶりに外へ。



ホームレスのおじさん

サトシさんは毎日、
段ボールハウスを
きちんと畳んで、
広い範囲を掃除します。
健康飲料の配達で
よくこの場所を通る
ヨシミさんは、
サトシさんに声を
かけました。
お話をして
ちょっと心配になった
ヨシミさんは、
本人の了解を得て
市役所に相談しました。

毎日えらいわね。
これ、私の
おざりよ!!



かあさん。
先生が来て
くれたから
安心だよ

自宅で療養中のシズエさんは、
夕食後、胸に違和感を覚えて、
旦那さんに相談。
ケイスケさんは診療所に電話、
症状を話したところ、
医師が往診に来てくれました。

往診する
お医者さん



外国人住民

死ぬまでに、
一度お国に
行ってみたい
ですなあ

当日、演奏は
大盛況。
代表と
神主さんは
満面の笑み。

まちの工場の研修制度で
長期滞在中のアフリカの人たち。
お囃子の練習の音に誘われ
神社へ。神主さんから
お祭りの歴史を聞き、
自分たちも民族音楽を
奉納演奏したいと
願い出ました。

働く
障害者



ここは、障害者も活躍するまちの牧場。
知的障害者のトシ君が、オーナーと牛舎でエサやり中。
トシ君はいつも一生懸命なので、牛たちのお気に入り。
牛がお尻をペロペロ、オーナーは大笑いです。

「ありがとね。
みんなもうちに
持って帰ってね」

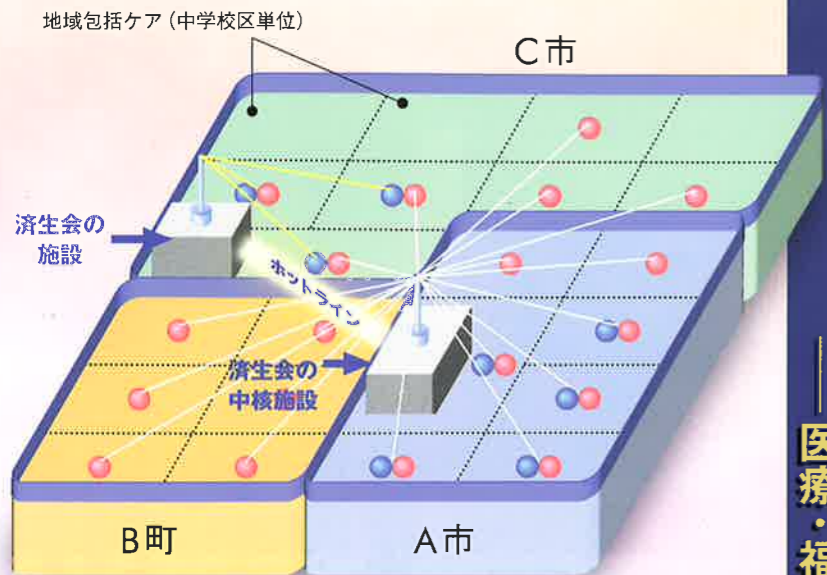


近
所でお手伝い

落っこち
ないで
ねーっ!!

柿は
全部もがなくて、
カラスが食べる分は
残しておいて
よーっ

一人暮らしの
おばあさんに頼まれ、
近所の子どもたちが
柿をもいであげています。



地域包括ケアの対象＝高齢者をはじめ、支援を必要としている人も、包括的にサポートしていく

- 高齢者中心の地域包括ケア
- 外国人、ひきこもり、障害者、刑余者、ホームレス、母子家庭、DV被害者など、支援を必要としている人

済生会が考える地域包括ケア【模式図】

済生会が目指すのは、医療と福祉が有機的に融合した「まち」です。ネットワーク小委員会はそのため「道すじ」を示しています。

現在進められている「地域包括ケアシステム」は、超高齢社会を迎えて高齢者のケアが中心となっていますが、問題はそれだけではありません。

心身障害者をはじめ刑務所等からの出所者、長期滞在の外国人、ホームレス、学校でのいじめや家庭で虐待を受ける子ども達、DV被害者、貧困の児童、ひきこもり……様々な困窮者への支援も大きな課題となっています。全ての人がはじき出されずに一人の人間として生きられる社会、ソーシャルインクルージョンが普通のこととなっている地域。それが私たちの理想とする「まち」です。

その構築に向けた済生会の各施設のアプローチを「報告書」は四つに類型化してタイプ別に代表的な施設を紹介しています。

医療・福祉連携 地域ネットワーク専門小委員会報告から

済生会も地域に合わせた「かたち」を考え続けます。

あなたも、思い浮かべてみてください。

すてきなシーンはもつとあるはず。



挨拶するまち

出会う人、すれ違う人がみんな目を見て、笑顔であいさつ。

転勤でこの町に降り立ったヤマザキさんは、最初は遠慮がちに「……おはよう」しづらくすると慣れてきて大きな声で「おはようございます」

施設で働く知的障害者のミチコさんが、初めてのお給料でおかあさんにプレゼント。お給料日、迎えにきたおかあさんに渡しました。

後日、おかあさんは「これで安心して死ねる」と語っていました。

はい、おかあさん

初めての給料日

タイプ1

急性期を担う病院、回復期、慢性期などの医療を担う病院の双方があり、福祉施設、在宅介護事業所も近隣に立地している

急性期医療を担う病院と回復期や慢性期などの医療を担う病院の双方が比較的近隣に立地し、施設福祉から在宅介護まで済生会の資源が充実しており、済生会だけでも切れ目のないサービス提供が可能である。行政との協力関係や地域の医療・福祉などのネットワーク体制にも重きを置いている。

山口地域ケアセンター 山口総合病院

地域の医療・福祉施設は全て住民の資源。
行政、他団体とも密に連携

知らない人同士が つながっていく

山口地域ケアセンターは、山口市の湯田温泉地区で医療・福祉サービスを総合的に提供している。療養病床142床の湯



田温泉病院を中心に特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、居宅介

晴れた日曜の朝、山口市朝倉町の「あさくらデイサービスセンター」の前で、おばあさんが一人で座っているのを、車で通りがかった近所の井出崎小百合さんが見かけた。「デイ」は、済生会が住宅地の空いている民家を借り受け、在宅の認知症の人たち向けに開設したものだ。

「あれ？ここは認知症の人達が通うところだけど日曜は休みのはず」

井出崎さんが車を止めて、おばあさんに尋ねると、「今、「デイ」の職員が」車でみんなを迎えに行っているの、待ってるの」と言う。そんなことはないと思ったが、携帯を家に置いて来て、どこにも連絡が取れない。困っている

と、そばのアパートから赤ちゃんを抱いた若い女性が出てきた。見知らない人だったが、事情を話し、おばあさんを見つめるよう頼んで急いで自宅に戻った。

あちこち連絡を入れ、やっとのことでおばあさんの身元がA子さんと判明、「デイ」が休みであることを忘れ、出かけたことが分かった。「デイ」の前に戻り、迎える家族にA子さんを託した。世話を頼んだ若いママに礼を言うと、最近、越してきたばかりで誰も知り合いがいまいと言う。

「なら、うちに遊びにきませんか」

井出崎さんは14年前から毎週水曜日の午後、自宅を「オープンハウス童楽（ドゥーラ）」と名付けて開放している。主に子育て中の母親たちが集まって情報を交換したり、悩みを打ち明けたり。子ども達も出入り自由で、中学生のころから遊びに来て赤ちゃんをあやしているうちに、新米ママより上手に世話ができるようになった大学生もいる。



オープンハウス「童楽」の花見会。山口地域ケアセンターのお年寄りも参加し、若い母子たちと春のひと時を過ごす



「童楽」を訪れる母子。あさくらデイから認知症の人達も時折、職員と訪れ、赤ちゃんをあやしてご機嫌

護を担う在宅複合型施設、認知症対応のデイサービスセンターなど老人福祉と障害者の支援施設群に加え、訪問看護ステーション、地域包括支援センターや障害者生活支援センターなども複合的に設置されている。直線で約1・3kmのところには、急性期の山口総合病院がある。さらに約20km山間地に入った仁保地区でも小規模多機能型の老人福祉施設・サービスを展開しているが、こちらでは地元の開業医と連携している。

山口地域ケアセンターの特長の一つに、行政サイドとの連携がある。これまでもセンター職員を山口市に派遣してきたが、地域包括ケアシステム構築に向け、新たに居宅でリハビリテーションを指導する作業療法士など2人が加わるなど計8人を同市に出向させ、一体となって老人福祉サービスを担っている。

さらには大学の福祉系学部での教育や刑務所出所者の就職に向けた介護講習会開催なども担当。「これからは済生会という組織の枠を越えて協力し、使える資源をフル動員して誰もが安心して暮らせる地域を構築していかなければならぬ」（篠原栄二・センター事務局長）と、医療を軸にした広範な福祉サービスの展開を目標に掲げている。

済生会の老人福祉施設の入居者が花見に出かけるときには、井出崎さんの呼びかけで若い母子も一緒に参加するなど、交流が続いている。そうした雰囲気の中で育った井出崎さんの長男は、音大在学中の夏休み、自分から特養でボランティア音楽会を開いて喝采を浴びた。

「私自身が他から越して来て、大変でした。少しでも同じような思いをしている人に役立てば」と、井戸端会議をモチーフにした「童楽」を始めた井出崎さん。突然、見ず知らずのA子さんの世話を頼まれた若いママさんも、この事件をきっかけに出入りするようになった。

新興だった住宅地も次第に高齢化が進んでいる。「あさくらデイ」は、在宅の認知症の人達が隣にお茶を飲みに行く感覚で利用してもらうのがコンセプト。外観は一般の民家と変わらず、A子さんのように門前で座っている違和感はない。たまたま井出崎さんは知っていたが、今後、同様のケースがあった場合、誰が通りがかっても不審に思っただけで声をかけてくれるようにという井出崎さんのアドバイスをいれ、「デイ」は休日の張り紙を掲出する対策を取った。井出崎さんは、認知症ケアで注目されている「ユマニチュード」をマス

ターしたいと言う。

安心して子どもが迷子になり、お年寄りが徘徊できる街。「住民と色々な施設、市が協力して地域



住宅街の空き家を借りた「あさくらデイサービスセンター」。認知症の人に、近所のお茶を飲みに行く感覚で通ってもらうのが狙い

がそんなふうになっていったらいいですね」。井出崎さんはそう笑った。



■訪問リハビリを受ける安原さん。老健の通所リハも利用し、1人でも自宅周辺を歩く優等生だ

「なんか全部、済生会のお世話になっていて……」と笑う安原さん。訪問・通所のない時は杖をつけて自宅周辺を散歩し、リハビリを欠かさない。奥さんが付き添うのだが、一人で出かけることもある。ある時、町内の人から「お宅のご主人倒れていますよ」と突然、家に電話がかかってきた。驚いて奥さんが飛んで行ってみると、安原さんが道端に座っていた。バランスを崩し、通りがかった人が通報してくれたのだという。「みんなこの誰だか知っててくれますから、その点、一人で出しても安心です」と、今度は奥さんが笑った。

岡 山 市 北 区 の 最 上 稲 荷 の 参 道 で 土 産 物 店 を 開 く 安 原 和 美 さ ん (88) は 今 自 宅 で 済 生 会 吉 備 病 院 の 訪 問 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン を 受 け て い る 。 脳 梗 塞 の 後 遺 症 の た め だ 。 訪 問 リ ハ の な い 日 は 、 吉 備 病 院 に 隣 接 す る 介 護 老 人 保 健 施 設 ・ 備 中 荘 の 通 所 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン に 通 っ て い る 。 脳 梗 塞 で 倒 れ た 時 は 、 同 区 内 の 岡 山 済 生 会 総 合 病 院 に 運 ば れ 、 治 療 を 受 け た 。 両 病 院 は シ ャ ト ル バ ス で 約 20 分 の 距 離 。 急 性 期 を 脱 し た 後 は 、 回 復 期 リ ハ 病 棟 の あ る 吉 備 病 院 に 転 院 し 、 リ ハ ビ リ を 重 ね て 退 院 。 現 在 に 至 っ て い る 。

医療と介護、切れ目なく展開

■岡山済生会総合病院に近い特養「みなみがた荘」。岡山駅近く窓からは新幹線が見える



■吉備病院内にある特設流し台。家に帰った時を想定し、包丁やフライパンを使ってリハビリが行われる



■老健「備中荘」で開かれる夜市。利用者・家族だけでなく、地域の人も訪れる



岡山済生会総合病院、吉備病院ほか

高齢者向けサービスを、広範囲かつ総合的に展開する

山口地域ケアセンターは療養病床の湯田温泉病院を軸にした医療福祉の総合センター。特養・養護老人ホームや障害者支援施設、訪問看護・介護、地域包括支援及び障害者生活支援相談業務等の機能を備える。写真は障害者支援施設「なでしこ」。担当職員に障害者も採用している



相談員連絡協議会。各相談員が集まって各利用者の情報を共有し、複合的な問題に対処する

地域で行われる認知症サポーター養成講座に職員を派遣。演劇形式で認知症への対応を講義している



センターから20km離れた仁保地区で展開する小規模多機能施設「にほ苑」。入所者と家族の食事会も定期的に

特養「福寿園」で行われるレクリエーション

山口刑務所内で開かれている受刑者対象ヘルパー養成講座。講師を派遣し資格取得を支援し、出所後は職員として採用する全国初の試み





明和病院が誇るリハビリ施設の一つ。近隣の一般的な住宅の玄関やLDKをそっくり院内に設置したADLハウス。帰宅したイメージで訓練を行っている



回復期リハビリテーションの明和病院にある医療型障害児入所施設「なでしこ」でのレクリエーション。県内唯一の重症心身障害児施設であり、成人向けを合わせて通園の療養介護事業を展開している



明和病院のリハビリルーム。車いすで入れるトイレがワンフロアに計18室設置されている



明和病院のリハビリルーム。周囲は幅5メートル総延長300メートル、陸上のトラックのような廊下で囲われ、その外側に病室がある



明和病院の屋外にあるリハビリ用スロープ。2階から遠回り1階に下りて行き、その先にはリハ用の畑もある



明和病院通所リハビリテーションの洗髪コーナー



明和病院に隣接する老健「明和苑」のリハビリを兼ねたレクリエーション



急性期の松阪総合病院が院内で開く「健康フェスタ」のフットケア。このほか乳がん相談や脳卒中予防セミナーなど多彩なイベントで住民に健康の重要性を訴える

〈三重〉松阪総合病院、明和病院、特別養護老人ホーム明和苑ほか

地域の核として様々なイベントを通じ、地域の再構築に寄与



特養、老健、デイ・サービス、ケアホームなどを運営する岡山ライフケアセンターの屋外散歩



岡山ライフケアセンターのクラブ活動

〈愛媛〉今治病院、今治第二病院、今治老人保健施設希望の園ほか

老健「希望の園」で開かれた東日本大震災復興チャリティ演奏会。利用者はじめ近所の人たち約100人がチェロの音色に聞き入った



骨密度測定中



今治市内の公園で開かれる「フェスタ」に今治病院、今治第二病院のスタッフも参加。テントで健康相談や骨密度検査などを行い、住民の健康意識の向上に貢献している



唐津病院には療養病棟があり、リハビリテーションも行っている



センターの中核を占めるのは唐津病院の急性期医療

特別名勝・虹の松原にある特養めずら荘は、リゾートホテルのような外観と開放的な内装で注目。看取り対応の家族ルームなども備え、「終の棲家」として人気が高く、ケアハウスも併設されている。



〈佐賀〉唐津病院、老健まつら荘 特養めずら荘ほか

強い済生会の施設同士の連携。排他的ではなく、地域にも開放



センター内で週1回開かれる多職種参加の医療福祉情報会議。複合体としてのセンターを運営する重要な会議の一つ

唐津病院内の連携担当窓口と老健まつら荘内にある在宅介護を中心とした総合ケア担当セッション



園田孝志・唐津医療福祉センター長が考案、紙をテープ状に切って作った唐津の連携模型。東南アジアのスポーツ・セバタクロウで使われる藤製のボールをイメージした。済生会の各組織がつながって完結しているが、中は全て地域住民に見えて自由に出入りできる

長年の経験を生かし地域包括ケアでリードする立場にあり、他団体とも在宅医療の連携を進めている



タイプ2

急性期医療を担う病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、在宅介護事業所が近接して立地。機能的・地域的に集約されている

療養型の病院ではないが、急性期医療を担う一般病床中心の病院、福祉施設、在宅サービスが、隣接地や同一市内などまとまった地域内に立地し、ほとんどの医療・福祉などのサービスが切れ目なく提供できる。



老健にぎたつ苑の敬老会でフットリラクゼーション。同老健では、ヘルパー資格取得の講習会を定期的に開催し、地域での介護を進めている



在宅生活復帰支援センターハートフル済生会。松山病院や老健にぎたつ苑の隣接地に平成15(2003)年開設された。要介護、要支援状態にある高齢者やリハビリが必要な人たちのために居住機能と生活支援機能を備え、現在、整備が進むサービス付き高齢者向け住宅の先駆けとも言える施設だ

〈愛媛〉松山病院、松山老人保健施設にぎたつ苑、松山訪問看護ステーションほか



松山医療・福祉センターの重要な活動が訪問診療。急性期の松山病院の医師・看護師と訪問看護ステーションが協働し、がん患者宅を定期的に訪れて診療している

同センターの在宅部門を支える訪問看護ステーション事務所。重度療養者宿泊サービスによる家族支援や障害児の親が子を連れて集まる場所の提供など、在宅療養者への支援も積極的に行っている

地域包括ケア、介護サービスを受けられない離島、そして障害者の中間就労施設も



松山市沖に浮かぶ釣島で開かれる健診や健康教室。釣島は人口約60人の離島で、介護サービスが全く受けられなかったことから同市が済生会に依頼。自宅に風呂があっても入れない一人暮らしの高齢者のために、船にバスタブを積んで入浴サービスを始め、現在は定期的に訪問して医療相談、健康体操等を行っている



ワークステーションなどで働く知的障害者。パンやクッキーなどを製造し、松山病院内で販売している



平成27年度から障害者福祉も本格的にスタート。脳卒中などの後遺症による作業員を松山病院に派遣し、診療受付ケースの消毒・清掃等に当たっている



療養通所介護、発達障害児童支援などの機能を持つ「なでしこハウス三津」。所内には子ども用のボルダリング壁も設置されている。障害者が家族ぐるみで楽しめるほか家族同士の情報交換の場ともなっている

園庭でたき火に当たる松山乳児保育園の子どもたち。同園は木の遊具や泥んこ遊びのほか様々な自然素材を取り入れて注目されている





■ 地元の障害者支援まつりに新潟・三条病院も参加。集まった住民に健康体操を指導

タイプ2に分類されるその他の施設（一部）



■ 退院に向けた患者とMSW、リハ担当者による話し合いは、ケアマネジャー等につなぐ三条病院の退院システムの重要なプログラム



■ 老健の新潟・ケアホーム三条に、近くの寺から有名な節分の鬼が訪問



■ 新潟・三条特養長和園のデイサービスセンターで開かれたそば打ちイベント



■ 山形・特養やまのべ荘で行われている地元行事「団子さし」。4色の団子を木の枝に刺し、豊作を祈る



■ 山形・特養ながまち荘。介護職員の臨床美術士による絵の指導。右脳を活性化して認知症を予防する

滋賀県病院、特別養護老人ホーム淡海荘、介護老人保健施設ケアポート栗東ほか

24時間対応訪問介護・看護の厚労省モデルとして



■ 施設は急性期の滋賀県病院、老健ケアポート栗東、特養淡海荘で、淡海荘には訪問看護ステーション、訪問介護センター等が併設され、済生会地域ケアセンターとして高齢者福祉を担っている。在宅サービスは、ヘルパーと看護師が一体で24時間対応する定期巡回・随時対応型訪問介護看護にいち早く着手、国のモデル事業にも指定された



■ 滋賀県病院の病棟カンファレンス。脳神経科医、MSW、看護師、リハビリ担当者らが患者と退院・転院に向けて協議する



■ 淡海荘で行われている終末期ケア



■ 淡海荘のデイ・サービス



■ 淡海荘で入所者のレクリエーション

〈大阪〉吹田病院、
特別養護老人ホーム
高寿園ほか

施設ごとに独立し、
独自に工夫を凝らし、
他団体との連携も積極的に



大阪・吹田特養高寿園。

↑ 近くの保育園を訪問、園児
たちの手を握って大喜び

→ 近隣の小学生たちが
施設を訪問してくれ、おじい
さん、おばあさんも楽しそ
う



■ 高寿園のレクリエーション。入居
の人たちはみんな歌うのが大好き



■ 訪問看護ステーションも同居。
「いざ出動！」



タイプ3

急性期病院を中心に、福祉施設、
在宅介護事業所があるが、互い
に独自性・独立性が高い

医療施設、福祉施設、在宅介護サービス等が独立して運営されている。済生会病院は急性期病院であり、業務面では病診連携や病病連携など、地域の医療機関との幅広い連携体制がある。済生会の内部では、福祉施設の入所者の受診・入院や医療機関から在宅看護・介護事業所への利用者紹介等が主な連携関係となっている。



■ 島根・特養白寿園の大運動会。近くの保育園児
も応援に来てくれるのが恒例で、一緒に玉入れ



■ 島根・特養白寿園。中学生がボランティアで訪問し、入居者の車を押し
て屋外散歩。その中には、かつて園児として訪問してくれた中学生もいる

■ 島根・老健たかさご
ケアセンターの文化
祭。地域住民が大勢
参加し、神楽やカツ
オの解体ショーなど
で大盛り上がり。各
種出店も人気。



■ 福島・特養はなづかでのレクリエーション



■ 福島県川俣町で開かれる南米アンデス音楽祭コスギンは、国内最大の祭典。全国からフォルクローレの
ファンが駆けつけ、町中が盛り上がる。その市中パレードに参加する老健めぐみと特養はなづかの利用者



大阪・泉尾医療福祉センターが受託している大阪市大正区北部地域包括支援センター。要支援住民と行政、開業医、施設をつなぐ地域の要だ



泉尾センターの特養第二大正園で行われる、いきいき百歳体操

栃木県宇都宮市の済生会高齢者ケアセンターは、特養とちの木荘を中心としてケアハウス公孫樹やグループホーム等を展開している。とちの木荘内には駄菓子屋さんもオープンし、センター内では毎年、地域ぐるみの夏祭りも開かれている



新潟市の下町で往診・訪問診療を担う新潟内科診療所のスタッフ。特養や自宅での看取りのニーズが高く、深夜・休日の緊急往診も積極的に対応している



タイプ3に分類されるその他の施設（一部）



吹田病院の総合相談窓口

高寿園の室内。多床室だが、ふすまで簡単に仕切ることができ、個室としても使用できる



高寿園。セラピードッグに癒やされる



高寿園の入居者が地域の運動会に出場



地域貢献会議。特養としての事業以外にどんな貢献ができるか、職員が同士で話し合い



高寿園で定期的に行われる「ひだまりカフェ」。近所の皆さんも集まってお茶を飲みながら世間話



■ 東京・中央乳児院の子どもたち。3歳までの子を養育する乳児院を済生会は全国6カ所で運営しているが、病院を有する法人からか、近年は被虐待児が増加している

Z 地域の包摂活動

報告書では特に触れていないが、全ての人がその人らしく暮らせる地域をつくるため、済生会はすでに様々な取り組みを行っている。



■ 大分地域生活定着センターでは、大学の学園祭バザーに出店。対象者に販売に参加してもらっている



■ 刑務所や少年院の出所者の復帰をサポートする地域生活定着支援センター。済生会は全国4県で運営を受託し、積極的な活動を続けている。支援対象者を自宅に訪ね、相談にのる福井センターの職員

■ 大阪府済生会はNPO法人と協力し、釜ヶ崎の日雇い労働者らの健康診断を定期的に行っている。同府にある済生会8病院が協働し、約1000人を診る大々的な健診だ



■ 静岡済生会総合病院の外国人向け無料健康相談・検診。支援団体が主催する年1回の大規模な検診会のほか同院では毎週1回、ブラジル児向けの通訳サービスを行っている



■ 静岡・特養小鹿苑デイサービスセンターで行われた回転寿司大会。寿司は利用者のリクエストが多く、専門業者に依頼して本格的な回転寿司機と板前さんを派遣してもらう。笑顔が絶えないイベントだ



← 福岡・老健くれたけ荘の行事食は、太宰府天満宮で有名な梅ヶ枝餅。境内でなくても熱々、しかも誤嚥防止の特別餅に利用者さんは大喜び

↓ 兵庫・なでしこ暮楽部は、有野台団地の孤独死を防ぐため一人暮らしのお年寄りを見守る活動を続けている。顔を覚え、逆に覚えてもらうため、茶話会など団地の催しにも積極的に参加

↓ 兵庫・特養ふじの里では、利用者と家族を職員がサポートして馬温泉への一泊旅行を行っている。希望により終末期でも実施、「最後の家族旅行」という思い出づくりを積極的に進めている



医療福祉包括ケア連携士創設 総合ケアコーディネーターチームによるケアも

済生会

医療福祉連携 総合ケアモデル構想

済生会の高いレベルでの連携を実現しようとしており、地域包括ケアシステムを実現するための総合的な力を持っていると言える。

そこで、次のとおり「済生会医療福祉連携総合ケアモデル」を提案するものである。

1 構想の 目的と目標

(1)目的
医療や福祉の総合的なノウハウを有する人材による、地域に根差した医療や介護・福祉を切れ目なく提供することにより、済生会のブランド力を向上させる。

(2)目標

医療・福祉の諸機能を持つ済生会の特長を最大限に生かすため、計画的な人材育成を進める総合的なキャリアアシSTEM(以下、「トータルキャリアアシSTEM」という。)を構築するとともに、優れた人材によるコーディネーターチームにより、支援の対象者へ常に目配り

がなされるような伴走型の医療・福祉支援を行う。(略)

2 済生会医療福祉連携 総合ケアモデル構想の概要

(1)「医療福祉包括ケア連携士(仮称)」の育成

●病院における地域連携部門や医療福祉の連携や地域社会との連携を担うMSWをはじめとする総合力豊かな人材の育成を進める。

●特に、済生会独自のマルチプロフィール・ツシヨナルコラボレーションとして、医療と福祉をつなぐだけでなく地域包括ケアシステムを担い、地域社会の中で済生会の総合力を発揮することができ「医療福祉包括ケア連携士(仮称)」制度の創設に向け、事業スキームや育成のための教育課程などについて早急に検討する必要がある。この「医療福祉包括ケア連携士(仮称)」は済生会に属する者に限ることなく、広範な人材育成を視野に入れる必要がある。

(2)総合的に優れた人材を育てる「トータルキャリアアシSTEM」

●各支部は、支部長のリーダーシップの下、業務運営に関する日常的な協議調整を行う仕組みとともに、支部と病院、介護・福祉施設、在宅介護事業所の間で経営に関する戦略的な検討を行

えるような仕組みを検討する。

●施設、事業所や職種などの垣根を越えて医療や福祉などの分野や直接処遇業務や事務的業務など様々な仕事を経験することにより、医療と福祉に関する実務的な能力やコーディネーター能力などを伸ばすよう、各支部の状況に応じた計画的な人材育成を進めるトータルキャリアアシSTEMを検討し実践する。●支部によって施設等の設置状況に相違があることから、トータルキャリアアシSTEMを検討する際には、同じ支部内にある別の施設等のグループや支部間の交流などを視野に入れる必要がある。

●幅広い視野の育成や相互信頼関係構築の視点から、地域の行政機関との人事交流や派遣などを検討する。

●質の高いサービスを継続的に提供できるように、それぞれのキャリアにふさわしい管理体制を整えることも検討する。

(3)地域包括ケアシステムに貢献するための実践活動——「総合ケアコーディネーターチーム(例示)」によるケア

●済生会の事業展開は支部ごとに大きく異なっているが、後述する各タイプへの提言を参考にしつつ、高齢者、障害者、児童など支援を必要とする者に総合的なケアをコーディネーターするた

めの仕組みを構築する。
●そのため支援対象者(高齢者、障害者、児童など)ごとに「総合ケアコーディネーターチーム(例示)」を設けることを検討する。

●「総合ケアコーディネーターチーム(例示)」は、当面済生会の医療・福祉の多職種による連携の仕組みとして立ち上げ、将来的には、済生会にはない機能を含めた地域全体の多職種協働チームを目指す。

●「総合ケアコーディネーターチーム(例示)」は、会議に依るよりも適切な情報ツールを使用して、情報を共有しつつ、医療・福祉サービスを提供できるようなしなやかな組織活動を行う。

(4)施設、事業所整備など事業面での総合的な体制

●済生会にふさわしい事業や期待されている事業については、地域に不足する機能を論議・検討し、積極的な展開を図ることを検討する。

●地域ケア会議など、地方自治体が担う地域包括ケアシステムの中核となる機能の受託を積極的に進める。また、そのための人事交流も積極的に検討する。

●在宅医療、訪問看護、在宅介護など今後の地域包括ケアシステム推進の上で必要性が高いものを重点とする

●同時に、複合型サービス、定期巡回・随時対応型訪問介護看護など、高齢者や介護者の求めるものに沿い、医療・福祉の総合的な対応が必要なサービスの提供体制を整備する必要がある。

●これまで済生会が手掛けることが少ない事業に積極的に取り組む必要がある。

●別なく一体的に運用されており、総合的に高いケア能力を持つ職員を確保・育成を行っている。さらに、市役所などに看護師や理学療法士などの派遣を行い、医療・福祉行政の企画立案等も経験させるなど広い視野を持つ職員の育成にも取り組んでいる。今後は、急性期型の山口総合病院を含めた「トータルキャリアアシSTEM」の構築を目指すことが期待される。

●総合的な高いケア能力や広い視野を持つ職員の育成に計画的に取り組み、地域包括ケアシステムを推進する行政とも緊密な関係を構築していることから、「総合ケアコーディネーターチーム(例示)」など他の病院、施設等のモデルとなる新しいシステムを具体的に立ち上げることが期待される。

●行政機関との間には人事交流や様々な会議や協働事業を通じて信頼関係を構築しており、地域ケア会議をはじめ行政が取り組むべき課題にも積極的に関与しており、地域包括ケアシステムの最も先進的、具体的な事例ともなっている。

●概念として提示されている地域包括ケアシステムであるが、上述のような済生会医療福祉連携総合ケアモデルへの取り組みにより、「済生会山口包括ケアシステム」とも称すべき形である。化したことを全国に発信すべきである。

(2)小委員会の調査検討の対象で、施設の構成等が山口地域ケアセンター等に類似している施設群への提言

●急性期型病院と療養型病院、特別養護老人ホームなど、済生会の支部施設の中でも医療、介護、福祉、在宅介護などの全てにわたる資源がある数少ない施設群であり、総合ケアコーディネーターチームなどの取り組みにより総合的に充実したケアが期待される。

●済生会の総合力を発揮できるような体制づくりのために、最先端の急性期医療から特別養護老人ホームや在宅介護まで切れ目のない展開を生かし、可

作ることが必要とされている。

地域包括ケアシステムとの関わりについては次のように整理した。

(1)「済生会医療福祉連携総合ケアモデル」は、済生会の医療と福祉に高い総合力を持つ人材の育成と組織的な医療と福祉の連携体制を構築し、その総合力により適切なケアをコーディネーターすることによって、「地域包括ケアシステム」の中でも重要な仕組みとして機能する。

徒歩30分以内の日常生活圏域では、済生会の高度急性期型の病院や大規模な福祉施設なども、その地域における地域包括ケアシステムの一員でなければならないことは当然である。

また、済生会が提供する事業の利用者は、済生会などのサービスを利用していても、状況の変化に応じて切れ目なく他のサービスを受けられることを期待しているが、とりわけ病院、福祉施設によるバックアップや情報共有など緊密な連携により、済生会の総合的なノウハウが生かされ信頼感の高いサービス内容であることを期待している。

(2)「済生会医療福祉連携総合ケアモデル」により、済生会は、医療・福祉の提供者であるだけでなく、高い総合力を活用して医療・福祉・行政などの関係諸機関とも幅広いネットワークを構築し、「地域包括ケアシステム」に貢献する。

今後の地域包括ケアシステムを動かしていく中心となるのは「地域ケア会議」であることから、済生会は地域ケア会議に積極的に関わっていくだけで

る。「サービス付き高齢者向け住宅」は、

制度が創設される以前から「在宅生活復帰支援のため日常訓練が必要な者等に対し短期間そのための住居を提供する事業」として全国に先駆けた事業を行って来た。このような先進性と医療福祉の総合的なケアを積極的に生かせるような居住サービスの提供を検討する必要がある。

●さらに地域包括ケアシステムに貢献するため、健康診断やリハビリテーションなど介護予防のための普及啓発事業、病院ボランティアの積極的な活用による地域の健康・福祉のネットワークづくり、レクリエーション活動を通じた健康・生きがいづくりなどのほか、生活困窮者の就労援助や社会復帰の場の提供などにも目を向ける必要がある。

●社会の持続的な発展のためには、次世代を担う児童の福祉や健全な育成、障害者であることが障害にならない社会環境であることが必要である。済生会ならではの総合性を生かし、児童や障害者を対象とした医療福祉の総合ケアのための新たな施設や事業についても検討することが必要である。

(5)連携の状況や総合的なケアを示す、分かりやすい指標

●支部や施設、事業所は、その状況に応じたような項目について数値目標を設定し連携の推進を図ることも有効な手立てである。また、本部は、今後の中期事業計画の改定等に際しては、これらの中から最も適切に連携を示す指標を数値目標として掲げるかどうかについて検討する必要がある。

●急性期型病院と療養型病院、特別養護老人ホームなど、医療、介護、福祉、在宅介護などの全てに渡る資源があり、「総合ケアコーディネーターチーム(例示)」などの取り組みにより総合的に充実したケアが期待される。

●済生会の総合力を発揮できるような体制づくりのために、トータルキャリアアシSTEMの構築を検討する必要がある。

●関係行政機関との緊密な関係も構築されていることから、今後の地域包括ケアシステムへは積極的な関わりを検討すべきである。

(3)小委員会の調査検討の対象外であるが、施設の構成等が類似している施設群への提言

●岡山総合病院、吉備病院、岡山ライフケアセンターが

●今治病院、今治第二病院、今治老人保健施設希望の園が

●急性期型病院と療養型病院、特別養護老人ホームなど、済生会の支部施設の中でも医療、介護、福祉、在宅介護などの全てにわたる資源がある数少ない施設群であり、総合ケアコーディネーターチームなどの取り組みにより総合的に充実したケアが期待される。

●済生会の総合力を発揮できるような体制づくりのために、最先端の急性期医療から特別養護老人ホームや在宅介護まで切れ目のない展開を生かし、可

なく、地域の需要に応じて、様々な業務の受託についても前向きに取り組んで行く必要がある。

先に、医療施設、福祉施設等の状況に応じていくつかのタイプに分けるとともに、どのような施設群が当てはまるのかを検討した。そこで、前項に掲げた「済生会医療福祉連携総合ケアモデル」を実現するために、各タイプに掲げた施設群が具体的にどのように取り組むべきかを「提言」としてまとめた。

「済生会医療福祉連携 総合ケアモデル」の 具体的推進への提言

1 タイプ1(急性期医療を担う病院回復期、慢性期などの医療を担う病院の双方があり、福祉施設、在宅介護事業所も近隣に立地している)への提言

(1)タイプ1を代表する施設群への提言

山口地域ケアセンター(湯田温泉病院在宅複合型施設やすらぎ、特別養護老人ホーム福寿園ほか)、山口総合病院

●「山口地域ケアセンター」では、医療・福祉施設の垣根をなくした計画的なキャリアアップシステムを作り業務部門、管理部門とも医療、福祉施設の

3 「地域包括ケアシステム」と 「済生会医療福祉連携 総合ケアモデル」との関係

地域包括ケアシステムは、概ね中学校区程度(徒歩30分以内)の日常生活圏域を前提に、居住、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供されるものである。2025年を目標に、保険者である地方自治体が自主的、主体的に地域の特性に応じて、その仕組みを

能な限り多くの施設等が参加したトータルキャリアアシスタムの構築を検討する必要がある。

●関係行政機関との緊密な関係を構築し、今後の地域包括ケアシステムへ積極的な関わりを検討する必要がある。

2 タイプ2（急性期医療を担う病院介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、在宅介護事業所が近接して立地、機能的・地域的に集約されている）への提言

（1）タイプ2を代表する施設群への提言

唐津病院、介護老人保健施設まつら荘、特別養護老人ホームめすら荘^註。

●タイプ1の代表例である山口ケアセンターと同様、病院、福祉施設、在宅介護事業所を含めて計画的なキャリアアシスタムが構築されているなど「済生会医療福祉連携総合ケアモデル」の一つの実現例でもあり高い総合力の発揮が期待される。今後は、地域の行政機関などとの間での人事交流も視野に入れ、地域ケア会議など行政が取り組むべき課題にも積極的に関与し、地域包括ケアシステムの最も先進的、具体的な事例となるべきであり、「済生会唐津包括ケアシステム」とも称すべき形で具体化したことを全国に発信すべきである。

●他の医療・福祉施設なども含め、市内で比較的まとまった地域内に集約されていることから、病院・診療所・

福祉・介護・行政など地域全体で医療・福祉情報などを共有するような、全国に先駆けた地域の総合的なネットワークづくりなどの検討も期待される。

●今回の調査結果では、今後の連携向上のためには多職種合同カンファレンスの実施が必要との意見が最も多い一方、現実には職員間で他の職種への理解や意思疎通が不十分で実施できない病院も多かったが、既に多職種によるカンファレンスなど相当の取り組みが行われている。そこで、他の病院、施設等のモデルとなるような「総合ケアコーディネーターチーム（例示）」など新しいシステムの実現が期待される。

（2）小委員会の調査検討の対象で、施設群が唐津病院等に類似している施設群への提言

滋賀県病院、特別養護老人ホーム淡海荘、介護老人保健施設ケアポート栗東^註。

●これまでと同様に、地域の介護・福祉を先導する積極的な役割を期待する。同時に、今後の緊密な連携関係を生かすため、「総合ケアコーディネーターチーム（例示）」などの取り組みにより総合的に充実したケアが期待される。

●急性期病院とその他の施設の間これまでより緊密な連携体制が構築されつつあるが、さらに、全ての施設が参加したトータルキャリアアシスタムの構築を検討する。

●医療と福祉の共通言語や情報ツールの開発に関しては、すでに様々な取り組みが行われており、今後は、病院を

含め済生会全体の先導となるような成果が期待される。

●地域の行政機関などとの間で更なる緊密な関係を構築し、地域ケア会議など行政が取り組むべき課題にも積極的に関与して、地域包括ケアシステムの先進的、具体的な事例となることを期待される。

松山病院、松山老人保健施設にきたつ苑、松山訪問看護ステーション、松山特別養護老人ホーム、在宅生活復帰視線センターハートフル済生会^註。

●数多くの医療、福祉施設、在宅看護・介護事業所などを有し、在宅復帰強化型の介護老人保健施設や離島などへ積極的な巡回活動を行う指定訪問看護ステーション、在宅医療拠点事業の実施など、施設や在宅医療、在宅看護・介護の先進的な取り組みが行われている。個々の施設はこうした積極的な取り組みで評価が高い反面、それぞれの相互関係については今後この提言を踏まえ、さらに緊密な連携の仕組みを検討することを期待する。

●病院、診療所、高齢者、障害者、児童を対象とする福祉施設などあらゆる分野の事業を展開していることから、出来る限り多くの職種、多くの施設等を対象にしたトータルキャリアアシスタムを検討する必要がある。検討に当たっては計画的に優れた人材を育てることを基本に置き、風通しの良い職場と職員のモチベーションの向上を図る必要がある。

●上記のように人材育成を戦略的・計画的に行う仕組みを構築することにより医療・福祉の数多くの分野を経験させ、多くの施設、事業所を展開している特性を最大限に発揮できる「総合的ケアコーディネーターチーム（例示）」を編成するなど済生会ならではの総合的ケアを先導する役割を期待する。

●地域の行政機関などとの間では、相互に交流するような緊密な関係を検討する必要がある。済生会の中だけに止まらない広い視野を持つことにより、地域ケア会議など行政が取り組む課題にも積極的に関与し、地域包括ケアシステムの先進的、具体的な事例となることを期待される。

（3）小委員会の調査検討の対象外であるが、施設群が類似している施設群への提言

□川俣病院、介護老人保健施設めがみ、特別養護老人ホームはなづか^註。
□三条病院、介護老人保健施設ケアホーム三条、三条特別養護老人ホーム長和園^註。
□江津総合病院、介護（療養型）老人保健施設高砂ケアセンター、特別養護老人ホーム白寿園。

●広島病院、介護老人保健施設はまな荘、特別養護老人ホームたかか荘^註。

●地域の中心となる病院、介護老人保健施設、特別養護老人ホームなど、医療介護、福祉、在宅介護などの全てに渡る資源があり、「総合ケアコーディネーターチーム（例示）」などの取り組み

みにより総合的に充実したケアが期待される。

●地域的にもまとまっているため、既にある程度相互間の人事交流も見受けられるが、済生会の総合力を発揮できるような体制づくりのためには、可能な限り多くの施設が加わったトータルキャリアアシスタムの構築を検討する必要がある。

●地域的な特性を生かして関係行政機関との緊密な関係を構築し、今後の地域包括ケアシステムへ積極的な関わりを検討すべきである。

3 タイプ3（急性期病院を中心に、福祉施設、在宅介護事業所があるが、互いに独自性・独立性が高い）への提言

（1）タイプ3を代表する施設群への提言

吹田病院、特別養護老人ホーム高寿園^註。

●現在行われている病院と福祉施設間の連携の高度化、強化を図り、済生会の総合力を発揮できるような体制づくりのために、トータルキャリアアシスタムの構築を検討することが期待される。特に、大阪府済生会は支部全体的には、医療・福祉に関してほぼすべての施設事業所を展開していることから、支部内横断的なトータルキャリアアシスタムの構築により済生会の総合力を発揮し高いケア能力を持つ職員の確保・育成を行っていくことも検討する必要がある。

●病院、福祉施設などの独立性を生かして、医療と福祉の相互理解のための共通言語の検討や情報ツールの開発など、連携やネットワーク形成への特徴的な取り組みを行うことにより、「総合ケアコーディネーターチーム（例示）」とは異なる新しい連携の仕組みの開発につながることが期待される。

●タイプ1やタイプ2と異なり、当該施設群だけで切れないサービスを提供できるような状況ではないため地域との様々なネットワークが重要である。既に行政機関等とも緊密な関係を構築していることから、地域ケア会議への参加をはじめ、地域包括ケアシステムの重要な一員としてさらなる活動が期待される。

●地域の需要や済生会の能力に応じて、在宅医療、看護、介護等に関する新たな事業などにも取り組むことが期待される。

（2）小委員会の調査検討対象で、施設の構成等が吹田病院等に類似している施設群への提言

宇都宮病院、特別養護老人ホームとちの木荘^註。

●それぞれの施設ごとに得ている高い評価や施設展開が限られていることを生かせば、済生会の総合力を発揮し高いケア能力を持つ職員の育成を行うトータルキャリアアシスタムを医療・福祉施設間で早急に検討することが期待される。

●タイプ1やタイプ2と異なり、済生

会だけで当該地域に切れないサービスを提供できるような状況ではないため、医療・福祉とも地域との間で情報やサービスのネットワーク構築が進んでおり、今後、地域全体でのケアシステムに発展することが期待される。また、済生会の総合力で地域に貢献するためには、行政機関等ともさらに緊密な関係を構築し、地域ケア会議への参加をはじめ、地域包括ケアシステムの重要な一員として機能していく必要がある。

●地域に不足している医療、福祉、在宅関係事業等などの新たな事業展開、提案のあった済生会の福祉施設医務室などを活用して診療所を開設することなどについても、今後検討すべきである。

新潟第二病院、新潟内科診療所、特別養護老人ホーム康和園^註。

●それぞれの施設ごとに得ている高い評価や施設展開が限られていることを活用し、済生会の総合力発揮し高いケア能力を持つ職員の育成を行うトータルキャリアアシスタムを医療・福祉施設間で早急に検討することが期待される。同時に、当該施設群に止まらない関係づくりも必要であり、支部内にある三病院等他の済生会の医療・福祉施設との交流など資源の最大限の活用を視野に入れたキャリアアシスタムなどが期待される。

●タイプ1やタイプ2と異なり、済生会だけで当該地域に切れないサービスを

ため、医療・福祉とも地域との間で情報やサービスのネットワーク構築が進んでおり、今後、地域全体でのケアシステムに発展することが期待される。また、済生会の総合力で地域に貢献するためには、行政機関等ともさらに緊密な関係を構築し、地域ケア会議への参加をはじめ、地域包括ケアシステムの重要な一員として機能していく必要がある。

●内科診療所は、地域医療に関する重要な拠点となることから、在宅医療などの具体的な活用方法を検討し、病院共々済生会医療福祉連携総合ケアモデルの新しいタイプを形成することが期待される。

（3）小委員会の調査検討の対象外であるが、施設群が類似している施設群への提言

□静岡済生会総合病院、特別養護老人ホーム小鹿苑^註。
□野江病院、野江特別養護老人ホーム城東園^註。
□泉尾病院、泉尾特別養護老人ホーム大正園^註。
□兵庫県病院、特別養護老人ホームふじの里^註。
□下関総合病院、特別養護老人ホーム貴船園^註。
□八幡総合病院、介護老人保健施設くれば荘^註。
□二日市病院、特別養護老人ホームむさし苑^註。

●それぞれの施設ごとに得ている高い

4 タイプF（タイプ1からタイプ3に当てはまらない）に属する施設群への提言

新しい時代の「医療・福祉連携、地域ネットワーク」構築に向けて

●在宅介護推進の中で、入所施設の意義や様々な課題

評価や施設展開が限られていることを活用し、済生会の総合力発揮し高いケア能力を持つ職員の育成を行うトータルキャリアアシスタムを医療・福祉施設間で早急に検討することが期待される。同時に、当該施設群に止まらない関係づくりも必要であり、支部内にある他の施設群との交流など資源の最大限の活用を視野に入れたキャリアアシスタムとする等の工夫が期待される。

●タイプ1やタイプ2と異なり、済生会だけで当該地域に切れないサービスを提供できるような状況ではないため、医療・福祉とも地域との間で情報やサービスのネットワーク構築が進んでおり、今後、地域全体でのケアシステムに発展することが期待される。また、済生会の総合力で地域に貢献するためには、行政機関等ともさらに緊密な関係を構築し、地域ケア会議への参加をはじめ、地域包括ケアシステムの重要な一員として機能していく必要がある。

●中期事業計画に掲げた、済生会が果たすべき三つの役割の一つが「総合的な医療・福祉サービスの提供」であることから、本部は、今後実施する中期事業計画の見直しに当たって、出来る限り数値などを利用した具体的な目標を定めていくべきである。

さらに各支部は、「済生会医療福祉連携総合ケアモデル」を整備するための計画を策定し、積極的に推進していく必要がある。



シリーズ 濟生会の力

第4集

こんなまちならいいな 濟生会が目指す地域づくり

平成28年 3月3日 第1版第1刷発行
平成28年10月1日 第1版第3刷発行

発行 社会福祉法人 濟生会
理事長 炭谷 茂

編集 広報室

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル21階

TEL: 03-3454-3311 (代)

URL: <http://www.saiseikai.or.jp>

社会貢献は 創立の原点

濟生会は、
地域の医療・保健・福祉を
担っています。

創立以来の理念 「施薬救療による濟生」

濟生会は明治天皇の「濟生勅語」に基づき明治44年設立されました。社会に増大した困窮者に無償で医療を行い、それによって生を濟おうというのです。各地に診療所を設け、貧困所帯に無料の特別診療券を配布して受診をうながしたほか、巡回診療班を編成して困窮者の多い地区を回り診察・保健指導を行いました。

第二次大戦後、濟生会は財団法人から社会福祉法人に改組して再スタートを切りました。天皇のお志を忘れないため、「社会福祉法人 濟生会」を現在も正式名称としています。

日本最大の 社会福祉法人として

現在、第6代総裁に秋篠宮殿下を推戴し、会長は豊田章一郎、理事長は炭谷茂が務めています。公的医療機関として指定されており、全国40都道府県で99の病院・診療所、280の福祉施設等(平成26年度)を運営しています。平成26年度は、生活困窮者209万人を含め延べ2524万人が本会を利用されました。

地域の方々の目線に立って、皆さまに最適な医療・保健・福祉を総合的に提供することが、われわれの最大の使命だと考えています。



明治天皇



秋篠宮殿下

- | | | |
|------------|------------|----------------------------|
| 明治 | ●44年 2月11日 | 明治天皇「濟生勅語」を発し、お手元金150万円ご下賜 |
| | ●44年 5月30日 | 濟生会の設立許可(創立記念日) |
| | ●44年 8月21日 | 初代総裁に伏見宮貞愛親王殿下 |
| | ●44年 9月 9日 | 医務主管に北里柴三郎 |
| 大正 | ●1年10月24日 | 紋章として「なでしこ」を制定 |
| | ●5年 4月 1日 | 看護婦講習所開設認可 |
| | ●12年 4月 2日 | 第2代総裁に閑院宮載仁親王殿下 |
| 昭和 | ●12年 9月 1日 | 関東大震災 臨時に巡回看護班編成 |
| | ●20年 8月21日 | 第3代総裁に高松宮宣仁親王殿下 |
| | ●26年 8月22日 | 医療法による公的医療機関に指定 |
| | ●27年 5月22日 | 社会福祉法人として認可 |
| 平成 | ●37年10月 7日 | 巡回診療船「濟生丸」進水式 |
| | ●62年 4月21日 | 第4代総裁に高松宮宣仁親王妃喜久子殿下 |
| | ●6年 9月 7日 | 第12代会長に豊田章一郎 |
| | ●12年 4月 3日 | 第5代総裁に三笠宮家の寛仁親王殿下 |
| | ●22年12月10日 | 本会のマスタープラン「第四次基本問題委員会報告」 |
| | ●23年 5月30日 | 創立100周年記念式典
天皇皇后両陛下ご臨席 |
| | ●25年 4月 1日 | 第6代総裁に秋篠宮殿下 |
| ●26年 1月15日 | 4代目濟生丸就航 | |



露にふす 末野の小草 いかにと
あさ夕かかる わがころかな

——生活に困窮し、社会の片隅で病んで伏している人は
いないだろうか、いつも気にかけて仕方がない——

初代総裁・伏見宮貞愛親王殿下は明治45年、本会事業の
精神を野の撫子なでしこに託して歌にお詠みになりました。その
御心を、いつの世にも忘れないようにと、撫子の花に露
をあしらった紋章にして大正元年から用いています。

Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

社会福祉法人 恩賜財団 済生会

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル21階

TEL: 03-3454-3311 (代)

E-mail: headoffice@saiseikai.or.jp